

2016年12月4日

「光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。」 ヨハネ1：5

洗礼者ヨハネの弟子の一人（1：35）で、後に主イエスの弟子となり、十字架の時に母マリアを託され（19：27）たヨハネが晩年にこの福音書を書きました。

長い伝道生涯の結論として、主はこの世界に光を与えるために来られた神の御子である、と語ります。御子は「言（ロゴス）」として、世界の創造以前に存在し、「初めに…神と共に（肩を並べて）…神である」（→創世1：1）御方なのです（→Iヨハネ1：1「命の言」）。

御子は「初めに（途中からではなく）神と共に」あり（人格と言葉が切り離せないように！）、やがて「万物は言によって成った」のです（→創世1：3）。「世界の創造と同時に、神の言は外面的な作用となって表れた。」（カルヴァン）御子は創造者です（→ヘブライ1：2）。

使徒ヨハネにとって、御子は近寄り難い存在ではなく、人に「命」を与えて生かし、「人間を照らす光」として来てくださった御方でした。この世界は昔も今も「暗闇に追いつかれないように」（12：35）しなければならない有様です。

若い日に主イエスと出会ったヨハネは今、その幸せをかみしめます（→コヘレト12：1）。クリスマスは、「暗闇の中に輝いている（現在形）」光として来られた御子を賛美する時です（讃111番）。

2016年12月11日

「彼は光ではなく、光について証しをするために来た。」 ヨハネ1：8

使徒ヨハネは、自分の元の先生である洗礼者ヨハネが、主を証しした姿を思い出しつつ、信じた者の幸いを語ります。

夢と野心を抱いた若者であったヨハネは、ガリラヤを出てヨルダン川で活動していた洗礼者（→1：28）の弟子になりますが、主イエスを示されます。元の先生への尊敬を込めて彼は、「神から遣わされた一人の人…光ではなく…」と語ります。自分を見せるのではなく、主を指し示すことに徹した先生でした（→Iコリント4：1「キリストに仕える者」）。

主は、「まことの（究極的な）光で…すべての人を照らす」救い主でした（→15：1「まことのぶどうの木」）。しかし、「自分の民（ユダヤ人）のところへ来たが、民は受け入れなかった」のです。「神の子は、ひとつの国に自分の住まいを定めたが、彼が姿を現した時、拒まれた」（カルヴァン）のです（→飼葉桶！）。

それでも主が「自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えて」、「神の国を見る」（3：3）者とされるのを、ヨハネは見て来ました。「血（筋）や…肉の欲（素質）…人の欲（努力）」と関係なく、神の業です。

まことの光である主イエスを証しする私たちは、自分自身がその恵みを受けている幸いを感謝しましょう（讃124番）。

2016年12月18日

「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。」 ヨハネ1:14

使徒ヨハネは、神の御子であるイエスが人間となってこの世界に来られ、驚くべき恵みを与えられた、と語ります。

「言は肉となって」と言い、「人間」と言わないのは、「神の御子が天の栄光の高みから、卑しく低劣な状態にまで下られた」（カルヴァン）ことを強調するのです（スカイプと身近な孫！）。「宿られた」のは約30年の短い期間でしたが、「恵みと真理と（筋の通った恵み）に満ちて」おられた、と振り返ります。

洗礼者は、「わたしより優れている」（ランクが上）と言い、「わたしより先に（永遠から）おられた」と認めますが（→1:30）、使徒は、「恵みの上に、更に恵みを受けた」と、具体的な体験を語ります（ランキングトップのスポーツ選手が少年のコーチをするように！）。

モーセはシナイ山で律法（十戒）を受けましたが、それにはるかに勝る「恵みと真理はイエス・キリストを通して現れた」のです。「神を見た者」となるのは恐ろしいこと（→出エジプト33章）ですが、「父のふところにいる（心の秘密を共有する）独り子である神」が来られたので、私たちは安心して近づけます。

主イエスの栄光は、近寄り難い輝きではなく優しい光で、「しぼめる心に花を咲かせ」（讃112番）てくれるのです。

2016年12月25日

「ヨハネは…イエスが来られるのを見て言った。『見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。』」

ヨハネ1:29

洗礼者ヨハネは主に会う前、「その履物のひもを解く（奴隷の）資格もない」（1:27）と言いましたが、実際に会った時、全く新しい発見をします。

彼が主に洗礼を授けた時（→マルコ1:9）、主が私たちを罪の中から救い出して神の国に入れてくださる神の御子だと確信し、それを証しします（→グリュネバルトの絵「洗礼者の指」！）。

彼は今、「わたしはこの方（イエス）を知らなかった」と告白します。母親同士は親類でしたが（→ルカ1章）、自分は何もわかっていなかったのだ、と思うのです。それでも、「この方がイスラエルに現れるために…水で洗礼を授け」ている時、「“霊”が鳩のように…上にとどまる」のを見て、聖霊なる神と一体化している方だと知って驚いたのです。

さらにまた、「わたしをお遣しになった方（父なる神）」に教えられて、主が「聖霊によって洗礼を授け」ることによって人を神の国に生まれ変わらせることが出来る方だと知って（→3:5）、「この方こそ神の子」だと証しします。

洗礼者は「神の小羊」と証しすることによって、「おそらく過越しの小羊を考えていた」（カルヴァン）のでしょう。私たちの罪からの救い主です（讃130番）。